女性標示語「女(ジョ・ニョ・メ)～」について

徐 微 潔

1. はじめに

女性標示語⁽¹⁾とは、人間の女性を表わす合成語の前項要素で、積極的に「女性」であることを明示する言語形式である。例えば、「女社長」「女店員」「女性科学者」「女子アナウンサー」などにおける「女～」「女性～」「女子～」がこれに該当する。

「女～」は日本語の主要な「女性標示語」の一つであり、拘束形態素の「ジョ・ニョ・メ」と自由形態素の「オンナ」がある。本稿では拘束形態素の「ジョ・ニョ・メ」について考察する。以下の議論では両者を区別する場合は「女(オンナ)～」 「女(ジョ・ニョ・メ)～」とし、特に区別する必要がない場合は「女～」と表記する。

ところで、近年、「女～」の使用が減少し、「女性～」に言い換えられるようになったとされている(田中・諸橋1996、佐竹2001、田中他2011等)。田中・諸橋(1996:47)は、1985年と1991年の新聞3紙を比較して⁽²⁾、「女」がつく語は「八五年は三紙合計十五日分で二十五種類、一八七件が見られた。九一年には各紙とも減少し、十八種類、一三九件と二割ほど少なくなった」と述べている。

また、佐竹(2001:78)は、「スパイ・詐欺師・泥棒のような軽んじることのできるものには「女」がつく」と述べ、「女性社長」ではなく、わざわざ「女社長」と言うときには「からかい、やっかみといった要素が残っている」と指摘している。以下の(1)(2)はその例である。

(1) 恋人と別れさえすれば、私はたぶん、一介の女スパイに戻れるのだ。

(江國香織『ウエハースの椅子』)⁽³⁾

(2) A 「あの会社は女社長だからね、細かいことを言ってくるんだよ」

B 「あの会社は女性社長だからね、細かいことを言ってくるんだよ」

(佐竹2001:78)

ただし、佐竹（2001）の指摘は、「女（オンナ）～」について述べているもので、「女（ジョ・ニョ・メ）」に関する指摘ではない。「女（ジョ・ニョ・メ）」では、下記の（3）（4）で示すように、一国の最高統治者として、人々から尊敬されるべき存在としての「女帝」「女王」などの用例が見られる。

- （3）自分は果たして女帝の地位に値するか。その不安がこの表面は尊大な女帝の胸を凍らせる。（田中澄江『人物日本の女性史』）
- （4）しかし女王に復位してもらうためには、一体どうしたらいいのか。（猿谷要『ハワイ王朝最期の女王』）

このように、拘束形態素の「女（ジョ・ニョ・メ）～」と自由形態素の「女（オンナ）～」は語感や接続などにおいて違いが見られ、両者を分けて分析する必要があると思われる。また、なぜ「女～」の使用が減少し、「女医」などに置き換えが起きているのかについて考察する必要もある。

そこで、本稿は「女～」を拘束形態素の「女（ジョ・ニョ・メ）～」と自由形態素の「女（オンナ）～」に分けて議論を進めていく。以下では、拘束形態素の「女（ジョ・ニョ・メ）～」を取り上げ、主に新聞のデータを用いて、「女（ジョ・ニョ・メ）～」の使用実態、年代による使用数の変化と用法を分析し、それらを引き起こす要因を考察する。

2. データの概要

本稿では、『朝日新聞』1年分の記事（2010年1月1日から12月31日まで）を調査し、「女～」の用例を収集した。

検索でヒットした用例のうち、まずそもそも女性標示語と見なしている「女性」「女子」「女流」を除外し、次に人間を表わしていない「女道楽」「女相撲」「女みこし」を、また、「女婿」（男性を表わす）「女史」（接尾辞で単独で使用しない）「女将」「女衆」「女同士」を除外した⁽⁴⁾。こうして収集したデータを拘束形態素の「女（ジョ・ニョ・メ）～」と自由形態素の「女

(オンナ)～」に分けてカウントした。

調査の結果、2010年の『朝日新聞』から47の語例が抽出された⁽⁵⁾。そのうち、「女(ジョ・ニョ・メ)～」は20語、「女(オンナ)～」は29語である。調査で抽出したデータを延べ語数の降順で表1を作成した。

表1 「女～」(2010年1年分)

形態的特徴	語例 ( )内は延べ語数、網かけは「女」の読みが二通りの語例を表わす
ジョ・ニョ・メ 【拘束形態素】 (異なり20語/ 延べ5446語)	女児(2384)、女優(1316)、女王(950)、女神(323)、女学生(160)、女帝(81)、女生徒(78)、女官(29)、女医(26)、女中(26)、女工(26)、女囚(13)、女教師(8)、女傑(7)、女給(7)、女丈夫(4)、女孫(4)、女高生(2)、女賊(1)、女店員(1)
オンナ 【自由形態素】 (異なり29語/ 延べ169語)	女友達(42)、女主人(32)、女達磨(12)、女芸人(10)、女君(9)、女教師(8)、女三四郎(6)、女刑事(5)、女主人公(4)、女社長(4)、女探偵(4)、女船頭(4)、女孫(4)、女将軍(3)、女店主(3)、女忍者(3)、女芭蕉(3)、女海賊(2)、女城主(2)、女刑務官(2)、女殺し屋(2)、女相場師(2)、女わらしっこ(1)、女患者(1)、女看守(1)、女作家(1)、女車引(1)、女首領(1)、女囚人(1)

表1に示すとおり、「女(ジョ・ニョ・メ)～」と結合することばは限られ、2010年1年間で20語で、延べ語数は5446である。

3. 結果の分析

本節では、まず「女(ジョ・ニョ・メ)～」の使用実態を分析する。そして、田中他(2011)を踏まえて、「女(ジョ・ニョ・メ)～」の年代による使用数の変化についても検討する。

3.1 「女(ジョ・ニョ・メ)～」の使用実態

表1からは、「女(ジョ・ニョ)～」は「優」「王」「児」「帝」「中」「医」「官」などといった字音形態素の前につくのが一般的であり⁽⁶⁾、また、「女(メ)～」の使用は「神」という和語形態素の前につく1例のみであることがわかる。

「女（オンナ）～」と比較すると、「女（オンナ）～」が「友達」「主人」「三四郎」「探偵」など独立した語につき、臨時的な結合という面が強いのに対して、「女（ジョ・ニョ・メ）～」のつく語は単語としての熟合度が高く、固定化している語例が大半である。ただし、よく使用される語は限られていて、「女（ジョ・ニョ・メ）～」のつく20語のうち、「女兒」（43.8%）、「女優」（24.2%）、「女王」（17.4%）の3語で延べ語数の85%強を占めている。

では、「女（ジョ・ニョ・メ）～」の後項要素に何か意味的な特徴は見出されるだろうか。徐（2013a）では、「女子～」は「教育関連」、「スポーツ関連」のことばの前によくつき、「職業関連」のことばの前にもつく」ことを、また、徐（2012b）では、「女流～」は特定の分野で使われ、「芸術・技芸」と「囲碁・将棋」に従事する女性によく使われている」ことを指摘し、その後項要素の特徴について言及している。それらの例を（5）～（8）で示す。

- （5）女子大生の一人暮らしにしては、食器が揃いすぎている感もあった。（風間九郎『美姉妹狩り』）
- （6）糸島市の高校1年で女子キックボクシング選手の山田真子さん（16）が、東京でプロのデビュー戦に挑む。姉の紗暉さん（17）も昨年、最年少で女子プロボクサーになったばかり。（朝日2010/5/29）
- （7）信楽からの入選は、女性では清子一人だったので、信楽に、神山清子という女流陶芸家がいる。（岸川悦子・那須田稔『母さん子守歌うたって』）
- （8）しかも、お相手は、超人気の女流棋士・坂東香葉子さん。将棋が分からない人でも、贅沢な気分が味わえるに違いない。

（Tokiyoshi, Otsuka・Yutaka, Akahoshi 『BRUTUS』）

しかし、「女（ジョ・ニョ・メ）～」の後項要素には「女子」や「女流」に見られるような意味的な特徴はない。それは、「女（ジョ・ニョ・メ）～」が単に「性別の一つ」を表わすという抽象度の高い意味で用いられることゆえだと言えよう。ただし、今回の調査では、「女（ジョ・ニョ・メ）～」

には芸術・技芸関連や囲碁・将棋関連、スポーツ関連の要素につく例はなかった。教育関連では「女学生」「女生徒」「女高生」、職業関連では「女優」「女官」「女医」「女中」「女工」「女教師」「女店員」の語が表1にある。しかし、現在、これらの語のほとんどは、あまり使用されなくなり、「女子～」「女性～」（「女子生徒」「女性医師」など）に言い換えられたり別の語に置き換えられたり（「お手伝いさん」など）している。

たとえば、「女生徒」「女高生」はそれぞれ「女子生徒」「女子高生」とほぼ同義で、置き換えられるが、使用頻度は「女子生徒」と「女子高生」のほうが圧倒的に高い。今回の調査では、「女生徒」の78例に対して、「女子生徒」は約24.3倍の1896例であった。また、「女高生」の2例に対して、「女子高生」は795例がヒットした。

- (9) いじめ自殺の女生徒に黙とう 瑞浪中学校／岐阜県 10月に2年生の女子生徒がいじめを受けて自殺した、瑞浪市土岐町の市立瑞浪中学校では、体育館に集まった全校生徒約450人と教職員が終業式に先立って、女子生徒に黙とうをささげた。(朝日2006/12/27)
- (10) a. 女高生を強姦致傷容疑の消防士を逮捕／栃木県 (朝日2010/6/5)
b. 女子高生は家族と離れ、このアパートや友人の家を転々としていた。(朝日2010/12/27)

なお、「女学生」は戦時中の高等女学校の学生のことを指すものが多く(160例中148例)、これらの場合は「女子学生」とは意味が異なり、置換できない。

- (11) a. 戦時中、私は女学生で、日の丸に必勝と書いた鉢巻き、紺のもんぺ姿。(朝日2010/1/23)
b. 女学生時代、学徒動員で工場の寄宿舎生活を送り、一緒に働いた当時の仲間たちの少人数の同窓会があった。(朝日2010/11/17)

3.2 「女（ジョ・ニョ・メ）～」の使用数の変化

ここでは、田中他（2011）の調査結果も参考にして、「女（ジョ・ニョ・メ）～」の年代による使用数の変化を検討する。

田中他（2011）は、1985年からほぼ5年おきに行った調査のデータをもとに、「女性冠詞」、「性を含み込んだ職業語」と「他者との関係で女男があらわされることば」の経年分析をしている。表2は田中他（2011）による「女（ジョ・ニョ・メ）～」のつく語の推移を示したものである。

表2から分かるように、「女（ジョ・ニョ・メ）～」は2001年までは減少傾向にあったが、2006年は増加している。これは、特に、2001年まで一桁の頻度だった「女児」が2006年に143件に急増したことによる。田中他（2011）によれば、この原因は、調査した時期にある小学校6年生女子がいじめで自殺した事件が各紙で繰り返し報道されたためだという。また、「女（ジョ・ニョ・メ）～」のつく語は限られ、そのうち「女優」「女王」の使用頻度が高く、一定数を保っていると言える。

表2 「女（ジョ・ニョ・メ）～」の推移（延べ語数、3紙合計、半月分）⁽⁷⁾

1985年		1991年		1996年		2001年		2006年	
語例		語例		語例		語例		語例	
女優	111	女優	77	女優	70	女優	67	女児	143
女王	18	女王	18	女王	28	女王	17	女優	86
女生徒	8	女神	8	女児	7	女児	8	女王	15
女教師	5	女児	8	女生徒	3	女神	6	女神	10
女帝	4	女医	5	女帝	2	女医	3	女学生	7
女神	4	女帝	2	女高生	2	女帝	2	女帝	3
女医	3	女学生	1	女神	2	女生徒	1	女医	1
女学生	2	女生徒	1	女医	1	/	/	/	/
女高生	2	女囚	1	女学生	1				
女児	1	/	/	女官	1				
女囚	1			女教師	1				
計	159	121		118		104		265	

（田中他（2011：206-207）のデータをもとに作成）

田中他（2011：140）は、「[「女優」「女王」「女神」といったあたりが、“女”冠詞の定番といえそうである。これら上位以外の一つひとつの語の推移をみたところでは、ある語が眼にみえて減り、また逆にある語が明らかに増えてきているといったような明確な消長は、確認できなかった」と記述している。この指摘を検証するために、「女（ジョ・ニョ・メ）～」のつく語のうち、『朝日新聞』2010年調査（表1）で出現頻度の低かった「女医」など9語についての調査を行った。調査対象は、田中他（2011）と同じく1985年から2006年に2011年を加えた『朝日新聞』1年分の記事である。調査の結果を表3に示す。

表3 「女医」などの使用数の推移

語 例	延べ語数						計
	1985	1991	1996	2001	2006	2011	
女帝	10	33	34	56	86	34	253
女医	20	42	39	72	23	22	218
女官	8	17	16	36	81	31	189
女中	10	31	21	42	50	33	187
女工	9	19	11	16	11	11	77
女給	5	4	2	2	9	4	26
女囚	0	5	4	2	7	5	23
女傑	2	3	3	7	2	3	20
女丈夫	0	2	0	1	1	5	9

表3に示したとおり、これらの語は調査期間内で増減を繰り返しているが、明確な消長は見られない。つまり、表3は田中他（2011）の指摘を支持する結果となった。

ただし、3.1節で指摘したように、「女医」が現在「女性医師」に置き換えられ、「女工」「女中」「女給」などが殆ど使用されなくなって死語に近いという状況がある。そうした中で、これらのことばの延べ語数に明確な増減が見られないのは、下記の用例（12）～（14）のような使われ方があるからだろう。

- (12) フェミニズム、近ごろはジェンダー（性差）の考えも広がり、「女医」や「女性アナ」などの言い方をやめようという時代になっています。（朝日2001/2/6）
- (13) 「女中」は「お手伝いさん」と言い換えがされている。「お手伝いさん」といくら呼んでも、「女中、女中」とこき使っていた時と実態が変わらなければ、何にもならない。（朝日1985/2/4）
- (14) ビールやラムネ、カルメラ焼きなど懐かしい味も楽しめ、ウエートレス役の「女給」さんたちも和服にかっぽう着姿でハイカラな雰囲気盛り上げる。（朝日1991/10/24）

上記の用例（12）と（13）は「女医」「女中」などのような用語の使用上の問題を取り上げて述べているものであり、（14）は昔のことについて述べているもので、「当時の雰囲気」を反映するために、現在死語に近い「女給」が使用されている。このような使用が、「女中」「女医」「女給」などのことばに言い換えが起きても、減少傾向が見られず、一定量の使用につながっている一因だと考えられる。

4. 「女（ジョ・ニョ・メ）～」の用法上の特徴

「女（ジョ・ニョ・メ）～」の用法上の特徴として、ここでは2点を指摘し、検討を加えたい。

4.1 年齢制限がない「女（ジョ・ニョ・メ）～」

まず、1つ目として、「女（ジョ・ニョ・メ）～」のつく語には、年齢制限という接続制約がないという特徴があげられる。

- (15) スピードスケートで冬季五輪5大会連続出場の岡崎朋美（39）が23日、第1子を出産した。2936グラムの女児。（朝日2010/12/25）
- (16) この日は夏休み中とあって参加者は少なかったが、1、2年生3人の女生徒と担当の平井明子・教諭に手話を教えているのが、難聴の

椿剛史さん。(朝日2010/8/24)

- (17) 「女王」とも「天才」とも形容された。親友の女優中村メイコさん(76)は「夫(神津善行さん)がピアノの伴奏で歌うのを聴いただけで、ほぼ完璧に歌えた」。(朝日2010/12/25)

(15)～(17)の例から分かるように、「女(ジョ・ニョ・メ)～」には年齢制限がなく、未成年の「女兒」「女生徒」から成人の「女王」「女優」にまで使われている。

一方、日本語の「女」という語は「男」の対語として、女性というジェンダーを表わし、「女性、婦人、女の人」の意味で、ふつう成人女性を指す。例えば、次の(18)と(19)のようなものである。

- (18) そして何より、男に生まれず、女でよかったと思う。女として生きてこられたことが、おもしろいと、今も女であることを楽しんでいく。(マダム路子『いま、四十代を生きる女へ』)
- (19) 美を求める女の執念と、美を手に入れるための女の忍耐力…すごいわー。(Yahoo! ブログ2008)

また、徐(2013b)で指摘しているように、「女」は女性というジェンダーを表わすだけでなく、「性の対象物」という否定的意味が与えられた性的で生々しい「女」も指示する。すなわち、日本語の「女」という語には「女性」という概念的意味のほかに「性の対象物」という性的意味合いが付与されていると言える。例えば、(20)～(22)のような用例である。

- (20) 真面目な男性に見えても同じ社内ですぐと女性を変える人は、いずれ女問題で失脚します。(http://okwave.jp/qa/q7422603.html 2013/5/5参照)
- (21) 酒・煙草・博打・女！よく、酒・煙草・博打・女、全てやっている人はダメ人間かの代名詞のように言われますが…。(Yahoo! 知恵袋 2010/10/20)

- (22) a. 桃子はまだ10歳なのにもう女になった。
 b. 泰久はずっと刑務所暮らしだったので、女をほしがっている。
 c. うちの会社にいい女がいる。(Nakamura 1990 : 155一部改)

菊池 (1995 : 109) は、「女」の語は近世後期から、女性のセクシュアリティを露骨に表す言葉としての意味合いがよくなっていったのであり、儒教思想における男尊女卑の概念と相俟って、「女」の語感のなかに一種の差別語に近いニュアンスが付与されていったのである。「女」に込められなかった差別的語感、その後近代社会にも引き継がれて、いっそうそのニュアンスを強めた感さえある」と指摘している。

このように、単独用法の「女」は成人女性という意味に加えて性的意味合いが付与されて使用されている。しかし、「女(ジョ・ニョ・メ)～」にはそうしたニュアンスはない。それは、「女(ジョ・ニョ・メ)～」が拘束形態素で、名詞として単独で使われないために、単独用法の「女」のもつこうした意味に影響されていないことによると考えられる。したがって、「女(ジョ・ニョ・メ)～」は、単に「性別の一つ」という意味を持つ女性標示語として位置付けられ、年齢制限という接続制約をもたないのである。

4.2 「女(ジョ・ニョ・メ)～」の非対称性

2つ目の特徴として、「女官/φ⁽⁸⁾」「女帝/φ」「女医/φ」「女中/φ」と示されるように、「女(ジョ・ニョ・メ)～」の使用には性別に関する非対称性が見られることがあげられる。「女(ジョ・ニョ・メ)～」のつく語には、「女児・男児」「女優・男優」「女神・男神」「女教師・男教師」⁽⁹⁾のような対になっているものもあるが(用例(23)(24))、「女官」「女帝」「女中」など対語のないことばが多い。すなわち、「女」は「男」と対になっているにも関わらず、「女(ジョ・ニョ・メ)～」の平衡表現⁽¹⁰⁾である「男(ダン・ナン・オ)～」は少ない。たとえば、用例(25)～(27)には「男官」「男医」「男店員」のような対語はない。

- (23) プールの排水口では、06年に埼玉県7歳女児が死亡したほか、今夏にも愛媛県で10歳男児が一時意識不明になった。(朝日2010/12/29)
- (24) 男神で地下の暗闇の神であるエレボスと、不気味な夜の女神であるニュクス。(吉田敦彦『面白いほどよくわかるギリシャ神話』)
- (25) だから、宮中の女官とおなじなんですわね。だから、言葉が女官みたいに「お上」ですわね。(司馬遼太郎・山本七平『八人との会話』)
- (26) 女性医師の増加に伴って労働環境も見直す必要がある。特に小児科の女医は激務に加えて出産や子育てもしなくてはならない。(朝日2010/3/30)
- (27) 愛用しているジャケットは、十数年前に神戸の三宮の、センター街で買ったものだ。あの時の女店員は感じが良かった。(畠山久米子『ひとりの楽園』)

このような平衡表現の少なさは、「女（ジョ・ニョ・メ）～」のつく語の使用が避けられるようになった理由の1つである。そもそも、女性標示語は性別に関して非対称的表現であり、そこに「女性は垂流」「男性＝人間」の発想が見られると、しばしば批判されてきた。「女～」に関しては、寿岳(1979)をはじめ、その使用に異議を唱えた学者が数多くいる。

江原由美子氏はしまようこ氏、れいのるず＝秋葉かつえ氏との対談の中で、「日本でも、ことばの性差・性差別についてだれもが気づいてはいるんですね。なんで女性の職業人だけ上に「女」をつけて呼ばれるのかとか。「女医」とか「女流作家」とかね(江原・しま・れいのるず1993:22-23)と、「女医」や「女流作家」などの女性標示語をことばの性差別と見なしている。

以上のように、先行研究において、「女性標示語」は言語上の性差別だという指摘が行われた。

1960年代に欧米を中心に盛り上がりを見せたフェミニズム運動は、「女性標示語」などを含め、性差別的な言語を改革し、性差別のないことばを使うという言語改革運動を提案した。フェミニズム運動が1970年代に日本に波及し、1980年代から、日本語の差別表現に関する包括的な研究が行われてきた。

上野・メディアの中の差別を考える会（1996）は、「女医」「女優」「女子高生・女高生」などのことばを取り上げ、新聞の用例を通して、それぞれ「歴史的にふり返っての表現なら女医も仕方がないが、職業名としては、医師で十分」（同：39）、「男女とも「俳優」に。あるいは、男女共通の「役者」「タレント」もおススメ」（同：52）、「「女子・女」をどうしてもつけるのなら、「男子・男」もつけてバランスをとるのがよい」（同：44）と提案している。

新聞業界では、記者用のハンドブックや用語集が性差別的表現を批判するフェミニズム運動の高まりを受けて、その主張を一部取り入れて改定されてきた。

例えば、共同通信社の『記者ハンドブック第12版』では、「差別語・不快用語」の項目で「女性を特別視する表現や、男性側に対語のない女性表現は原則として使わない」と前置きしてから「女傑」「女丈夫」など女性を殊更に強調したり特別扱いする表現は使わない」とし、職業（業種）などに関して「女工→女性従業員」「女中→お手伝いさん」「女給→ウエートレス、従業員、ホステス」と記している。

朝日新聞の『取り決め集'98』には、「性差別語」の項目が加わり、「女傑」「女丈夫」などが使わないことばとして挙げられている。『取り決め集'02』には「ジェンダー」の章を設けて内容を充実させ、11月に「ジェンダーガイドブック」を作って配布し、「男女のいずれかに偏った表現、性差別役割分業などに注意する」とジェンダーへの配慮を示し、「女教師」「女医」「女社長」などを挙げ、「なるべく使わない」「極力避ける」などとしている。

こうして、現在、新聞では平衡表現のない「女（ジョ・ニョ・メ）～」の使用が抑制され、性別表示が必要な場合は「男子～」 「男性～」 と対になる「女子～」 「女性～」 が使用される傾向が見られるようになったのである。

5. まとめと今後の課題

以上で述べたことを簡単にまとめると、次のとおりである。

①「女（ジョ・ニョ・メ）～」は後続する要素が限られ、「ジョ・ニョ」は字音語に、「メ」は和語につくのが一般的であり、よく使われるのは「女

児」「女優」「女王」などである。②「女（ジョ・ニョ・メ）～」のつく語は安定性があり、その使用数に明確な増減は見られないが、「女医」などのことばには置き換えが起き、「女中」「女工」「女給」はほぼ死語に近い。③「女（ジョ・ニョ・メ）～」のつく語には年齢制限という接続制約がないが、これは「女（ジョ・ニョ・メ）～」が拘束形態素で、名詞として単独で使われないために、単独用法の「女」のもつ「成人女性」「性の対象物」という意味に影響されていないことによる。④性別に関する非対称性が見られる「女（ジョ・ニョ・メ）～」の使用はフェミニズム運動からの批判を受けて、現在、新聞などではその使用が避けられる傾向がある。

本稿は、先行研究の結果を踏まえながら、新聞のデータベースからサンプリングしたデータを分析・考察した。自由形態素の「女（オンナ）～」も同様に考察する必要があるが、今後の課題としたい。

注

- (1) 詳しくは徐（2012）、徐（2013b）を参照。
- (2) 田中・諸橋（1996）は男女雇用均等法施行前の1985年とその6年後の1991年、それぞれ10月1日から15日までの朝日新聞・毎日新聞・読売新聞各朝夕刊の投書・小説・テレビ欄・広告を除く全記事を調査対象としている。
- (3) 本論文で挙げる例文は一部を除き、全て『朝日新聞』と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からの実例であり、便宜上、『朝日新聞』を『朝日』と略称し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からの例文は出典を明記する。
- (4) 「女将」は「おかみ」という読みで、「じょしょう」ではないため、除外した。「女同士」は全体で女性を表わし、「同士」は接尾辞であり、「女王」「女帝」「女官」「女主人」「女友達」などと性質が異なるため、除外した。また、「女衆」には「女たち、女性たち」と「下女、女中」といった二通りの意味があるが、今回の調査でヒットした3例は全て「女たち」の意味を表わすため、研究対象から除外した。
- (5) ヒットした語例のうち、「女教師」と「女孫」はそれぞれ「ジョキョウシ」「ジョソン」とも「オンナキョウシ」「オンナマゴ」とも読めるため、両方に加えてある。しかし、全体の異なり語数の上では「女教師」「女孫」という表記を優先し、

1 語として計算した。また、調査で「女友だち」「女だるま」の表記の語例もヒットしたが、それぞれ「女友達」「女達磨」として計算した。

- (6) 「女（ジョ・ニョ）官」「女（ジョ・ニョ）賊」以外は「ジョ～」である。
- (7) 田中他（2011）は朝日・毎日・読売の3紙の半月分のデータを取っているため、本章における調査期間とは異なっているが、データとして参考になる。
- (8) 「φ」は対語のないことを示している。
- (9) ただし、「男優」「男神」「男教師」は「女優」「女神」「女教師」ほど用いられない。また、「女教師」は「ジョキョウシ」とも「オンナキョウシ」とも読めるが、「男教師」は「オトコキョウシ」としか読めない。そのため、両者は表記においては対応しているが、読みにおいてはずれが生じている。
- (10) 詳しくは徐（2014）を参照。

参考文献

- 朝日新聞社（1998）『取り決め集'98』朝日新聞社
- 朝日新聞社（2002）『取り決め集'02』朝日新聞社
- 上野千鶴子・メディアの中の性差別を考える会（1996）『きっと変えられる性差別語—私たちのガイドライン—』三省堂
- 江原由美子・しまようこ・れいのるず＝秋葉かつえ（1993）「座談：女とことばと日本語文化」『おんなと日本語』pp. 4-30 有信堂
- 大石強（1989）『現代の英語学シリーズ4形態論』開拓社
- 菊池慶子（1995）「女性名称の歴史の変遷—「婦人」「女性」「女」についての覚書—」『聖和学園短期大学紀要』32 pp. 105-119 聖和学園短期大学
- 共同通信社（2010）『記者ハンドブック第12版—新聞用字用語集—』共同通信社
- 佐竹秀雄（2001）「女性冠詞の根本問題は解決していない」『女とことば—女は変わったか、日本語は変わったか』pp. 73-79 明石書店
- 寿岳章子（1979）『日本語と女』岩波書店
- 徐微潔（2012b）「新聞記事からみた女性標示語「女流～」の現在」『ことば』33 pp. 50-68 現代日本語研究会
- 徐微潔（2013a）「日本語における女性標示語「女子～」」『日本語と日本文学』55

pp. 22-37 筑波大学日本語日本文学会

徐微潔 (2013b) 「女性標示語としての「女～」と“女 (nv) ～” — 日中対照研究の試み —

『ことば』 34 pp. 43-58 現代日本語研究会

徐微潔 (2014) 「中国語の女性標示語 “女 (nǚ) ～” について」 『ことば』 35 pp. 35-48

現代日本語研究会

田中和子・諸橋泰樹編著 (1996) 「新聞は女性をどう表現しているか」 『ジェンダーから見た新聞のうら・おもて「新聞女性学入門」』 pp. 38-80 現代書館

田中和子他 (2006) 「新聞において女性はどのように表現されているか — 「新聞紙面にあらわれたジェンダー」 第四回調査を中心に —」 『国学院法学』 43-4 pp. 69-162 国学院大学法学会

田中和子他 (2011) 「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在 (その3) — 「延べ語数」と「異なり語数」の経年分析及び「言語計画」の観点から —」 第四回調査を中心に —」 『国学院法学』 48-4 pp. 127-231 国学院大学法学会

徐微潔 (2012a) “日語中“女性標示語”使用現状考察 — 以『朝日新聞』的報道为例” 《日語学习与研究》 1 pp. 37-43 《日語学习与研究》 杂志社

Nakamura, Momoko. (1990) Woman's Sexuality in Japanese Female Terms. In Ide, Sachiko and Hanaoka mcGloin Naomi (eds.) *Aspects of Japanese Women's Language*. pp. 147-163 くろしお出版

資料

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)

「朝日新聞」データベース

付記 本稿は2015年度浙江省哲社企劃課題「日語“女性標記詞”の語義与体系研究」(番号: 15NDJC225YB)、2015年度浙江省“錢江人才計劃”C類課題「現代日語“女性標記詞”語義内研究」(番号: 7)、2015年度浙江省外文学会重点課題「基于語料庫的漢日“女性標記詞”对比研究」、浙江師範大学博士科研助成金「日語

“女性標示語”的語義与体系研究」(番号：ZC304014026)の助成を受けて行った研究の一部である。

(じょ びけつ・浙江師範大学教師)